

森のようちえん全国交流フォーラム 実行委員会



浅井 留子 森のようちえん ねっこぼっこ

「森のようちえん ねっこぼっこ」の大きな特徴は二つ。園舎を持たずに、年間を通して森や里山で活動をしていること。自然体験が特別なイベントではなく、子ども自身の生活となっていて。もうひとつは、保育スタッフが子どもの育ちをしっかりと見据え、共に、親御さんそれぞれが才能や特技を活かして自主運営で支えている点です。「子どもの内なる力を信じて待つこと」を大切にすることで、子ども自身が主体的に遊び、失敗や葛藤、驚き、発見、感動といった様々な感情と向き合い成長していきます。私達「ねっこぼっこ」の活動が、日本全国の仲間との肥やしとなれば、今回実行委員として、コーディネイターとして、このフォーラムに関われた大きな喜びとなるでしょう。
http://plaza.rakuten.co.jp/morinoyoutienn/



岩田 旭 小学館レクリエーションリーダーズクラブ

小学館レクリエーションリーダーズクラブ代表(設立1981年)として、子どものためのキャンプ・イベント活動を柱に活動してきました。5年前よりキッズキャンプ(対象3歳から6歳)を実施し、幼児教育の一環として自然体験活動を行ってきました。他にも30年前より巡回あそびの学校を、幼稚園・保育園・児童館他にて実施。また先生方対象の「子どものための遊び方研究会」を実施してきました。子どもにとって「あそび」は、心身ともに必要な栄養であり、宝である。自然体験活動はそれを強力にサポートしていくものと確信しています。



白井 朋子 野外保育 森の子

野外保育森の子理事長。森へ集まれちびっこ会主催。高2、小6、小2の3児の母。自然と人の共生を目指し、21世紀の生き方を考えるシャロムコミュニティの一員として、ゲストハウス、木のおもちゃ、フェアトレードの店などの仕事のかたわら、野外活動に関わる。2002年4月自主保育で仲間「野外保育森の子」を立ち上げ、4年間保護者として関わり、卒園後も運営面でサポートしています。野外での学童、森あそびクラブなど、小学生の活動のサポーターもしています。



内田 幸一 こどもの森幼稚園

こどもの森幼稚園は、長野県飯綱高原の自然の中にあります。今から25年前、自然の持つ教育力を信じて、私たちは東京から長野に移り住み、幼児教育の実践者として、小さな子どもたちと毎日過ごしてきました。生涯をかけたこの仕事に出会えたことは、大きなよろこびです。



太田原 康志 NPO法人 自然体験活動推進協議会

自然体験活動推進協議会(CONE)の太田原です。今年度からお手伝いさせていただくことになりました。よろしくお願ひします! CONEでも昨年度は「幼少期における自然体験活動の必要性と効果について考える」シンポジウムを開催しました。募集開始後あっという間に200名を超える参加者が集まり、このテーマに関する関心の高さに驚きました。今年度も引き続き「幼少期における自然体験」をテーマに取り組んでいますので、その成果はまたご報告できればと思っています。



織田 敦子 森のようちえん ねっこぼっこ

自然の中で、自然な子育てを見守りたい。ただ、私が母親にもらったように我が子も自然の中で育てたい。そんな想いから、森のようちえん ねっこぼっこを発足させました。発足当時園児数は2名。今年4年目を向かえ、現在12名になりました。保育スタッフ4名と保護者と共に、自主保育・自主運営を担い、来春NPO法人格に向けて準備中。第3子9/3出産予定。残念ながら、今年のフォーラムにも参加をしたいのですが、今回は見送ることにします。森のようちえん ねっこぼっこ園長。



黒田 あや 財団法人 キープ協会

「キープ森のようちえん」プロジェクト事務局。幼稚園教諭・保育士を経て今は乳幼児だけでなく、自然学校では、山猿から超お嬢さんまで幅広く対応しています。専門学校、盲学校、養護学校や様々な施設の子どもたちは私の視野を広げてくれます。そして、キープ森のようちえんは5年がたち、多くの親子との出会いがあります。日本の保育の中で「森のようちえん」はどうなっていくのしょう? 改めて勉強し直します! 東京のと真ん中であつても関西弁バリバリ! で話していますので、どうぞ気軽に声をかけてください。



小菅 江美 NPO法人 緑とくらしの学校

NPO法人緑とくらしの学校理事長。2004年にデンマーク・スウェーデンの森のようちえんを視察研修し、日本へ持ち帰る。新潟県上越市で森の子育て広場「森のようちえん「てくてく」」をはじめ、2006年より自主保育を展開。野外幼児教育の普及を願い、講演・執筆活動に力を入れている。2007年8月再度デンマークを訪れ、最新の森のようちえんを見学する。



小西 貴士 財団法人 キープ協会

「キープ森のようちえん」プロジェクト事務局。関西から八ヶ岳へ流れ着き、「キープ森のようちえん」の活動を始めて5年が経ちました。短期間催型の森のようちえん、認可保育所での森の保育、合わせて年間120日以上を、子どもたちと八ヶ岳南麓の森で過ごしています。森の子どもたちを撮ることも、またライフワークになっています。3日間、たくさんのお出合いを楽しみにしています!



小林 直美 親子自然体験「森のたんけんたい」

「森のたんけんたい」は1992年名古屋市の自主保育サークルと出会い、自然の中で子育てに魅せられた一人の母親が引越を機に1997年愛知県春日井市にたちあげた野外自主保育グループです。親とスタッフにあたたく見守られながら子どもたちが毎日森の中で遊びのびとすごしています。活動の様子はブログでご覧いただけます。('森のたんけんたい'で検索できます)



小比類巻 友紀子 NPO法人 国際自然大学校

「繋がりを「輪」にし、「輪」を広げ、「和」をつくること」、「和」になった皆でガッツポーズをすること」が、私のやりたいことです。そしてもうひとつ。幼児期の子ども達に、自然体験活動を通して発揮させたい「あそび力」。これを最大限に引き出すために「環境・安全・関係づくり」の提供が重要と考えています。これを具現化するために、走り続けています。



佐々木 豊志 くりこま高原自然学校

1957年岩手県生まれ。学生時代に野外運動を専攻し卒業後は企業の中で野外教育の事業化や、野外教育や環境教育などの全国的ネットワークの立ち上げや交流に関わる。96年私費を投じて「くりこま高原自然学校」を設立。現在、スタッフ6名と山村留学や不登校など寄宿をしている子ども達と共に、自給自給の生活を実践している。人や社会や地球環境の関わり方を見据えて、より豊かな生き方を創造することを学ぶ体験活動の場を提供している。



沼倉 幸子 NPO法人 国際自然大学校

第一回目のフォーラムに参加し「森のようちえん」にひと目惚れ。現在はNPO法人国際自然大学校で「ノッツ森のようちえんプロジェクト」に参加しています。自然の中で子どもたちの育ちを見守る保育が、日本中に広がることを願っています。国際自然大学校の仕事のかたわら「森のようちえんウェブサイト」<http://www.morinoyouchien.org/>の運営も行っています。



野口 美紀 じゃんけんぼん

平成9年、現在の多摩川付近に引っ越し、友人と(自主保育じゃんけんぼん)を立ち上げる。現在第4子と共に活動中。自主保育を通じて、様々な人と出会い、〈多摩区にプレーパークをやっちゃおう会〜通称たまプレー〜〉などで、冒険遊び場づくりにも関わっている。中1(女)、小5(女)、小2(男、5歳)と夫とパパタと生活している。



野村 直子 NPO法人 国際自然大学校

私は自然の中に身を置くことの心地よさが大好きです。滝つぼで泳いだり、樹に抱きついたり、草むらで寝転んだり、自然の中でヨガをしたり。今、都心の子も遠く樹に抱きついたことがある子はどれくらいいるでしょう? 子ども達が自然の中で育つことの大切さ、自然の中で過ごす事の心地よさを伝えていきたいと思っています。



宮本 英樹 NPO法人 ねおす

NPO法人ねおす専務理事。木育ファミリー会員。幼児向け森林環境教育プログラム「こどもは森でかがやく」(北海道森林管理局2005.3発行)を編集したことをきっかけに乳幼児の育環境と自然の関わりに興味を持ち始め、実践と研究に取り組んでおります。現在は週末保育や園長保育、お母さんたちの自主保育のお手伝いから、幼稚園の設計までに関わるようになりました。今一番興味があるのは木から出る揮発性物質や森の酸素濃度量、森林褐色土にいる菌と人間に与える影響??? です。そんなことに興味あるひといませんか??



森 雅浩 ビーネイチャー

Be-Nature School代表。水、森、食、身体など様々な切り口でのプログラムを展開。幼児教育・保育関連では、東京郊外の幼稚園・保育園での自然体験活動の実施や職員研修を手がける。最近では参加型の場づくりやファシリテーター育成研修の仕事も多い。著書「田んぼのきもち」(ポプラ社)編著「おとなの自然塾」(岩波書店)



藁谷 久雄 NPO法人 国際自然大学校

30年来、野外活動(教育)、自然体験活動を実践してきました。幼児期の子どもたちに独創的で、創造的な自然体験活動が提供できるようにしたいと、森のようちえんプロジェクトを立ち上げました。子どもの発達段階で必要な体験をせずに成長させる事は心身ともに健康な成長ではありません。幼児期の自然体験が今、必要なのです。都市型森のようちえんをどのような展開できるか、方向性を見出せるか?



自然体験と子育て幼児教育を考える

森のようちえん

全国交流フォーラム 東京

A National Forum of FOREST KINDERGARTEN in Tokyo 2007

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター

2007
11/30 (Fri)・12/1 (Fri)・12/2 (Sun)

参加申込
および
問合せ先

森のようちえん全国交流フォーラム in 東京実行委員会事務局

TEL: 03-3489-6320 NPO法人 国際自然大学校 藁谷・沼倉

〒201-0004 東京都狛江市若戸北4-17-11 E-mail:tokyo@nots.gr.jp FAX: 03-3489-6921
森のようちえんウェブサイト <http://www.morinoyouchien.org/> NPO法人国際自然大学校 <http://www.nots.gr.jp/>

本フォーラムでは、学校教育法における幼稚園の名称ではなく、自然を取り入れた幼児教育について認識を深めるためのひとつの事業形態についてようちえんという名称を使用しています。

主催 「森のようちえん全国交流フォーラム in 東京」 実行委員会
協力 コールマンジャパン株式会社および社団法人国土緑化推進機構

『森のようちえん』全国交流フォーラム

今年のテーマは、『もっと知りたい森のようちえん』

3日間にわたり、自然体験と子育て幼児教育を考えます

開催概要

開催日 平成19年11月30日(金)・12月1日(土)・12月2日(日)

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
URL: <http://nyc.niye.go.jp/> ※車でお越しの方は有料駐車場がございます。

●近郊地図

●電車でお越しの場合

- 東京駅から
JR中央線 約14分⇒小田急線 各駅停車 約3分 参宮橋駅下車 徒歩約7分
- 羽田空港から
東京モノレール 約23分 浜松町駅乗り換え⇒JR山手線(外回り) 約23分 新宿駅乗り換え⇒小田急線 各駅停車 約3分 参宮橋駅下車 徒歩約7分
- 成田空港から
JR総武線 成田エクスプレス 約80~90分 新宿駅乗り換え⇒小田急線 各駅停車 約3分 参宮橋駅下車 徒歩約7分

●車でお越しの場合

- 首都高速4号線
代々木ランプより(三宅坂方面のみ) 約100m
初台ランプより(高井戸方面のみ) 約2km
新宿ランプより(大型バスの場合) 約2km

対象 子育て中の親子、幼稚園や保育園の先生、幼児教育関係者、幼児教育専攻の学生、自主保育活動者、自然学校、自然体験活動団体、森づくり活動団体(森林ボランティア)、森林環境教育関係者、プレイパーク(遊び場づくり)、野外活動指導者、学生、社会人。子育て、幼児教育に興味関心のある方ならどなたでも。

受付期間 平成19年10月1日(月)~11月25日(日) ※定員になり次第締め切ります
※申込書は9月30日(日)から『森のようちえんウェブサイト』よりダウンロード出来ます。
<http://www.morinoyouchien.org/>

定員 200名(各日)

申込方法 ウラ面お申込先に、お電話、FAX、Eメール、郵送のいずれかの方法でお申し込み下さい。

参加費 全日程参加 6,500円 個別日程参加 11月30日(金) 1,500円 12月1日(土) 2,500円 12月2日(日) 2,500円

宿泊費 宿泊費: 1,150円/1泊 (国立オリンピック記念青少年総合センター)
※ 部屋数に限りがございます。[先着順、申し込みと同時に予約ください。]
※ 東京近郊の方の宿泊はご遠慮ください。

その他 託児スペース用意

主催 『森のようちえん全国交流フォーラムin東京』実行委員会

協力 コールマンジャパン株式会社および社団法人国土緑化推進機構よりご支援を受けて開催いたします。

講師・ゲスト紹介



上遠 恵子 NPO法人レイチェル・カーソン日本協会
東京都出身。東京薬科大学卒業。研究室勤務、学会誌編集を経て、現在エッセイスト。レイチェル・カーソン日本協会理事長。
レイチェル・カーソンの著作物の訳書に『海辺』(1987年、平河出版社、原題The Edge of the Sea)、『潮風の下で』(93年、宝島社、Under the Sea Wind)、『センス・オブ・ワンダー』(91年、祐学社、96年、新潮社、The Sense of Wonder)など多数。



川村 協平 山梨大学 教授
1951年生。岩手県出身。日本キャンプ協会国際委員・キャンプディレクター1級。「自然の暮らしと健康」というテーマでアフリカの熱帯雨林にすむ狩猟・採集民ピグミーの村で調査・研究を行っている。山梨県にて1980年から28年間継続して幼児キャンプを企画し研究を行ってきた。また、週末を利用した自然体験活動、沖縄、奄美大島、五島列島などの海のキャンプなど野外教育の指導、研究を行っている。授業では学生たちとアラスカで犬ぞり体験キャンプ、アメリカ西海岸の国立公園をめぐるキャンプなどを行っている。



グリーンサンタ
グリーンサンタ基金は、2006年に発足し、子どもたちに緑溢れる地球を贈るために、森林保護活動に取り組む団体です。森の色であるグリーンの衣装を取り組む団体です。森の色であるグリーンの衣装をまとった、デンマークの環境親善大使グリーンサンタ(R)をキャラクターにして、子どもにも大人にもわかりやすいメッセージを伝えていきます。現在、全国の保育園、幼稚園、小学校を対象とし、日本の国産材製品をプレゼントする事業を行っています。2007月12月25日まで募集しています。 <http://www.greensanta.jp>



鷹姫
『「旬教育」のススメ』の著者で一児の母。行政の子育て推進協議委員。よく遊び、そこから学ぶ「旬教育」という独自の家庭教育の手法を、読者数約1万8千人の無料メルマガにて配信。『旬教育の積み木』や、母親向け自己啓発・思考改革テキスト&DVD教材をプロデュースしている。無料レポート「教育下廻しは何故起きる?」はダウンロード件数が教育部門累計1位を獲得。サイト <http://www.taiyonoko.com/> (検索「旬教育」)



篠木 里恵
1958年東京生まれ。保育士。認可外幼稚園を中心に20年間保育に携わる。その保育への情熱と、自身の失敗談を基にしたアドバイスで、子どものみならず親からも大人気。4年前より「キープ森のようちえん」の保育にも関わる。今年3月に幼稚園は引退。只今、自宅を舞台に母親支援を模索中。ユーモアたっぷりの保育現場のエピソードは一聴の価値あり!

プログラムスケジュール

※プログラムスケジュールは予定ですので、変更となる場合があります。

1日目 11月30日(金) PM3:00~

《午後》 団体ポスターセッション 団体リレートーク(参加者が持ち寄った情報を交流する場です)
《PM7:00~8:30》 上遠恵子と語るタベ&「センスオブワンダーダイジェスト版(環境教育)」上映

2日目 12月1日(土) AM9:30~PM7:00

《午前》 開会式 全体セッション **講演1**『子どもは自然』山梨大学:川村協平氏
講演2『デンマークの環境親善大使グリーンサンタ(R)がやってくる』グリーンサンタ

《午後》 分科会

分科会A [PM1:00~]	分科会B [PM3:00~]
A-1「世界の森のようちえんの歴史から 日本版森のようちえんを探る」 小菅 江美 デンマークの一人の母親からはじまった森のようちえん。今では、北欧4カ国、ヨーロッパへとその取り組みは広がっています。極寒の地でも建物をもたず、一日中森で過ごすそこには、子どもが育つ本来の姿と大人の役割を見ることが出来ます。60年もの森の幼稚園の歴史から、日本の幼児教育がどうあるべきか、一緒に探りましょう。	B-1「世界の森のようちえんの歴史から 日本版森のようちえんを探る」 小菅 江美 A-1と同じ
A-2「子育て幼児教育から見た森のようちえん」 内田 幸一・小林 直美 幼児期は感性を豊に育てる時期です。四季を通じた自然の中に、小さな子どもたちを出しましょう。自然の中で子どもたちは何を感しているのでしょうか。そして何が育つのでしょうか。実践の中から見ていくものを紹介いたします。	B-2「子育て幼児教育から見た森のようちえん」 内田 幸一・小林 直美 A-2と同じ
A-3「森の保育コトハジメ」 小西 貴士・黒田 あや・篠木 里恵 「保育(者)」、「子どもを見る目」がキーワード。森で子どもに関わる時に大切なことって何だろう?子どもに寄り添う大人ってどんな存在なんだろう?ゲストは、森のようちえんもお手伝いされている保育歴20年のベテラン篠木里恵さん。 現場発の楽しいエピソードと、森のようちえんの子どもたちのスライドショーも交えたおしゃべりタイムです。実践者や経験豊富な方はもちろん、学生や、お母さん、これから始めたいと思っている方も大歓迎です!	B-3「森の保育コトハジメ」 小西 貴士・黒田 あや・篠木 里恵 A-3と同じ
A-4「森のようちえん日本での実践~それぞれの立場から~」 薬谷 久雄・浅井 智子 「森のようちえん」って何?ヨーロッパからの受け売りではいけません。日本では自然環境の中での幼児教育や保育を「森のようちえん」と呼ぶそのスタイルは様々です。園舎を持つ、持たないようちえんもあります。そのなかで共通しているのは自然の中での幼児教育と保育です。保育者、幼稚園教諭、自主保育、自然学校などで展開されている事例を紹介いたします。	B-4「楽しく楽チンの「旬教育」で、子どもの生涯学力を伸ばそう!」 佐々木 豊志・鷹姫 子どもの能力を伸ばす事は、実はとても簡単です。なのに、多くの親がメディアに翻弄され真逆の方法を実践し、子どもの能力を潰してしまっています。社会に出てからも通用する高度な能力と人間力、遊びの中でこそ育まれるのです。子育て現在進行中で、「旬教育」のススメ(玉島社)の著者が、その秘訣を伝授します。



※申込の際に分科会の希望を第二希望まで記入してお申込下さい。

《夜》 ナイトセッション『森のようちえんネットワークを求めてI』

「広げる・広がる&つなげる・つなげる森のようちえん」。幼児期における自然体験活動の重要性をより深く理解するために、3つのブースにわかれてのナイトセッション。自然体験指導者関係・幼稚園や保育園関係・自主保育関係の3つの分野で苦労した話や実践内容の紹介などを行います。それぞれの繋がりが深めるとともに次の一歩を探りましょう。学生さんや社会人、子育て中のお父さん・お母さん、興味のあるブースにご参加ください。

《PM7:00》 情報交換会 (別途 4,000円)

3日目 12月2日(日) AM8:45~PM12:00

《午前》 分科会 『森のようちえんネットワークを求めてII』

「広げる・広がる&つなげる・つなげる森のようちえん」。ネットワーク第二弾!各分野を超えて幼児期の自然体験活動の重要性を探ります。前日「森のようちえんネットワークを求めてI」に参加した人も、参加しなかった人も、さまざまな立場から幼児期の自然体験と子育て幼児教育について話し合い、そしてつながりネットワークをひろげましょう。

全体セッション『幼少期(幼児期)の自然体験活動さまざまな取り組み』文部科学省、環境省、林野庁(予定)
クロージング・セッション 閉会式

期間中は写真展を開催予定です。

自然体験と子育て幼児教育を考える

森のようちえん

全国交流フォーラム in 東京

報告書

2007

11月30日・12月1日・2日



<http://www.morinoouchien.ogr/>

会場 国立オリンピック記念
青少年総合センター

主催 「森のようちえん全国交流フォーラムin東京」

協力 コールマンジャパン株式会社
社団法人国土緑化推進機構

林のようちえん全国ネットワーク

回覧

持ち出し禁止

資料提供：

